

インターバンクの声（2014年12月5日）

昨夜、注目された欧州中央銀行（ECB）理事会は、実質域内総生産（GDP）とインフレ見通しについては下方修正したものの、追加の景気刺激策導入の発表はなく、さらなる金融緩和を期待した投資家たちにとっては期待外れの結果になった。この ECB の決定の発表直後、市場の一部は追加緩和があったとの認識のもとにユーロを売り込んでしまうような混乱もあった。ドラギ総裁は会見で、2015年の早い時期に追加の緩和措置が必要になるかどうかの判断をすると述べたが、市場は政策委員会の総意が思っていたほどにはハト派側に傾いていないとして、この後ユーロは1.24ドル台まで買い戻される展開となった。この ECB 理事会後、短時間で売買が交錯したユーロの動きに120円超えを前日のニューヨーク市場後半からずっと躊躇ってきたドル円もやっと120円超えを果たした。ただ、120円を超えて一旦は達成感も強く、また米雇用統計の発表も控えていることもあって、再度120円相場に戻すのか調整局面に入るのかは、今晚の指標発表を待ってからになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。